

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田 大介	生徒指導主事	井手 正典
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いのち輝く学校をめざす生徒会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らへの自信」	3

取組のねらい『自治的能力』

○よりよい学校生活を主体的に築くための話し合い活動や集団への寄与など自主的能力の育成を重視する。

取組の具体的内容『当たり前のことを当たり前』

○UNITYプロジェクト…委員会活動や日頃当たり前でなければならないことについて6つの委員会で取り組み、日頃が充実するクラスを表彰する。

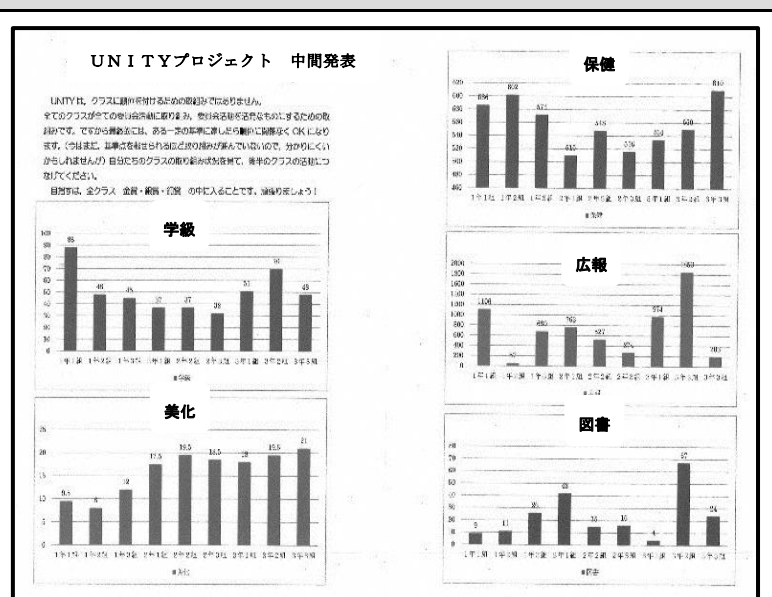
○「ヤリキリ清掃+α」「イチガン挨拶」…7年前から始まり、今では大竹中学校の代名詞になった2つの取組である。教師は素晴らしい取組をしている生徒にシールを渡し、生徒は配付された台紙に貼る。生徒は台紙がいっぱいになったら、次の色のカードがもらえ、3色のカードがいっぱいになったら、イチガン、ヤリキリバッチがもらえる。さらに、3色のカードがいっぱいになったら、プライドバッチがもらえる。



取組の課題・創意工夫『クラス間、委員間の温度差があるので、委員も表彰』

○5年前から始まった「UNITYプロジェクト」だが、学年や学級によって取組に差があり、委員の活動にもばらつきがあるので、中間報告を行い、クラスの状況を周知し、後半の取組に生かした。また、優秀な委員を評価し、表彰することで、委員の意識を高めた。

○大竹中の伝統の「清掃」「挨拶」を一人ひとりが高い意識を持って引き継いでいくために、生徒会が具体的な基準を示し取り組んだ。また、挨拶に関しては個人表彰も行った。



取組の成果（効果）『生徒たちの肯定的評価で検証』

○「UNITYプロジェクト（生徒会各委員会）を頑張っている。」
「よくあてはまる」63.7% 「ややあてはまる」29.8% 「肯定的評価」93.5%

○「私は掃除を頑張っている。」
「よくあてはまる」80.9% 「ややあてはまる」16.0% 「肯定的評価」96.9%

○「私は、あいさつがしっかりできる」
「よくあてはまる」50.7% 「ややあてはまる」40.0% 「肯定的評価」90.7%

今後の展開『よくあてはまる』が80%以上』

- どの取組も「肯定的評価」は90%をこえているが、「よくあてはまる」（最も高い評価）を選んだ生徒の割合は清掃のみが目標を達成した。学年や学級によっても取組に差があった。今後、さらに質の高い取組になるよう委員会を中心に考え取組ませ、「主体性・積極性」を育成する。
- 小中連携や縦割り活動をさらに充実させることで、新入生にもこれまでの本校の取組を伝え、「コミュニケーション能力」を育成する。
- 教職員が変わっても活動が継承される様に組織的に取り組み、教職員一人ひとりが適時的確に評価をすることで、生徒たちの「自己理解」を深め、「自らへの自信」を持たせる。

他教科との関わり『つながり』

- 生徒会活動を通して身に付けた「主体性・積極性」が各教科・領域で学習意欲につながり、「自らの自信」となっている。各学級の委員は、委員会の目標を達成するために、クラスメイトに呼びかけ、関わる中でコミュニケーション能力を高めている。また、それが各教科のグループ活動等で生かされている。